

第7回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成27年11月25日(水) 10:00~12:00
場所 富士見市役所 市長公室
出席者 ○市民懇談会参加者

岩本	川上	新井	前田	世羅	狐塚
○	○	欠	欠	○	○
山崎	氣賀澤	佐藤	岡田	守山	矢島
○	欠	○	○	○	○

○アドバイザー

森本 扶 先生(埼玉大学講師)

○事務局

【地域文化振興課】市川課長、中嶋副課長、荒田主事

【生涯学習課】木村課長、坂本主査

1 開 会

2 議 事 岩本座長

(1) 資料確認

事務局より、資料の確認を行った

(2) 協議事項

・生涯学習推進基本計画の見直しについて

5年間の生涯学習に関する事業のまとめを提示し、基本目標2の実施事業について委員よりご意見をいただいた。

委員) 基本目標1と基本目標2で重なっている事業があると思うが、説明して欲しい。

事務局) それぞれの事業は1つだけの目標を定めて行っているわけではないので、いくつかの目標に重なっているものはある。

委員) それぞれの事業ごとに施策の柱が入っているが、担当課で判断したのか。

事務局) 調査をかけた際に、回答した事業実施課が基本目標のどこに該当する事業であるかを判断している。

委員) いくつか重なっている事業は、主目的とそれ以外とに分けた方が良いのではないかと思う。

また、様々な事業が行われているが、基本計画で謳っているのはもっと高いレベルだと思う。そういった意味で、計画通り実行されているかを検証する必要がある。

委員) 人材バンクの一員として活動しているが、市として人材バンクをもっと周知してもらいたい。

事務局) PRについては、チラシやポスターなどで周知している。また、人材バンク推進委員の会に事業委託としてPRをお願いしている。

委員) 人材バンクとシルバー人材センターを勘違いしている人がいる。やはり知ってもらうことが大切。市民に人材バンクの活動を知ってもらうPR活動をしっかりやってもらいたい。

事務局) 今後も人材バンクの活動を理解していただくための周知をしっかりとやって行きたい。

委員) この中に補助金をもらって運営しているものはどれくらいあるのか。補助金をもらって運営をしている事業と、そうでない事業を分ける必要はないのか。

事務局) 資料で提示している各種事業は、基本的には行政で行っているもので、補助金で事業運営をしているものではない。あくまで、行政内の部署が行っている生涯学習に関連する事業を出している。

委員) 行政がつくる計画の在りようなどが市民に浸透していないと感じている。また、人口が増えれば市民要求も増えるため、行政への負担もでてくる中、市民としても市をサポートする体制が必要である。

事務局) この懇談会は10年計画の生涯学習推進基本計画が5年を経過したので見直しをするために集まっていた。今回の計画の見直しの方法については、これまでの5年間の活動を踏まえて、足りないものや新たに取り組むべきものをご意見として頂き、今後の5年間の計画を進めて行きたい。当市の社会情勢も変化しており、今後の5年をより充実させるために進めている事業について、改めて見直して頂きたいと考えている。

委員) この懇談会は審議会として諮問をする機関ではない。この懇談会はあくまでも市民の意見を聞く場として設けられていると解釈しているので、それぞれの考えを発言すれば良いと思う。

委員) 個票を見ると、多く出しているところと、いくつかの事業をまとめて1つで出しているところがある。統一を図った方が良い。

事務局) キラリや図書館といった指定管理の部分で入っている事業と入っていない事業もあり、今後は統一を図って行きたい。

委員) 保育関係や公民館関係の委員も務めているが、ここで提示されている

生涯学習事業と、他の会議などで提示されている資料の中にある事業に違いはあるのか。

事務局) 事務局が提示した資料は、あくまでも生涯学習推進基本計画に沿った事業として提示している。それぞれの事業には様々な目標があるため多少差異はあるかと思われるが、全く違う事業だとは考えていない。

委員) 交流センターなどで映画会をやっているが、それを生涯学習とみるのか、違う視点で見るのかによって差異は出てくる。

委員) 基本計画に沿って事業を進めているのか、計画ができて既に実施している事業をそれぞれの計画の柱にあてはめたのか、どちらなのか。

事務局) 計画策定前に実施していた事業もあれば、策定後に計画に沿った形で実施した事業もある。

委員) 例えばピースフェスティバルなどは鶴瀬公民館1館でやっているが、他では取り組んでいないのか。

事務局) 具体的に「平和」をテーマにした事業を実施している機関は鶴瀬公民館となる。

森本先生) 前回、計画の見直しをテーマに計画策定の経過や見直しするポイントをお話しした。生涯学習は個人の自己実現を超えて、いかに「まちづくり」を見いだせるかがポイントであり、この計画は富士見市の生涯学習の方向性を定めることなどを目指して策定された。

富士見市は昼夜人口の差が大きな街であり、駅を利用する人が非常に多い事などから、そういった視点も入れながら計画づくりに取り組んできた。

ポイントは市民がどれだけ能動的に参加できているのかが重要で、ただのお客様にならないように事業を組み立てられているかをチェックしてもらいたいと話をした。

次に地域課題を位置付けて学習しているかをチェックしてもらいたいという話をした。

例えば、子どもたちの行き帰りの安心安全の見守りなど、富士見市の地域に合わせて考えられているかをチェックしていく必要がある。

3つ目は実践を前提として学習されているかどうかをチェックしてもらいたいと話をした。公費を使った生涯学習は、地域に還元されなければならない。

4つ目は協働的な学習になっているか、相互的な学習に発展して行けるかをチェックしてもらいたいと話をした。

最後は今の4つを市職員がしっかり把握したうえで、事業に取り組んでいるかという点をチェックしてもらいたいと話をした。

前回2回の会議録を見ると、ららぽーとの件や人材バンクの件、高齢者の居場所の件、交流センター事業数の件等、具体的な生活実感に基づいたテーマで話が進んでいる。本日はその点も踏まえて、計画冊子の68ページに提言があり、73ページの基本目標1の具体例などを示している。このような具体例がどれだけ進んでいるのか、適切なのかという部分を、意見交換をしていきたい。

座長) 今回は基本目標2について話をしているので、75ページを中心に話をしていく。

委員) これまで様々な事業を進めて来て現在があるわけだが、「まだまだやれる」とか、「こうやったら良いのではないか」等の意見を述べて良いのか。

事務局) この5年間に実施してきた事業に対し市民の立場から意見をいただき、見直しをしていきたいと考えている。皆さんから頂いた意見を庁内でも検討し、今後の5年間に反映させていきたい。

座長) 計画段階で話された項目を見て、今後の5年間にやらなければならない事などを意見としてお願いしたい。

委員) (1)の「郷土の特徴や資源を活かす」についてだが、難波田城公園や水子貝塚の市民学芸員は増えていると聞いており、これから市外からの来訪者も増えることを考えると大変素晴らしい活動をしていると考えている。

ただし、地域の学校がどれだけ地域教材として活かしているかを考えると、近くの学校はいいが、離れている学校は薄いのではないかという課題もある。そういった面を今後の5年間でどう埋めていくかが大切。

委員) 私も指導員をしているが、毎年4月5月になると6年生を中心に学習に来る。多い時は120人くらいを案内する。そういった意味では地元の学校等とは連携が図れているし、土日などの市内外からの来訪者にはガイドをするなど、この5年間でかなり進んでいると思う。

委員) まだ市民でも水子貝塚や難波田城資料館を知らない人がいる。何らかの手を打って、周知徹底を図るべき。

委員) 他市にも水子貝塚と同じような史跡があり市民学芸員制度を立ち上げてるところもあるが、来客数が少なく活動を停止してしまう所もあると聞く。それに比べると富士見市の学芸員制度は充実しているといえる。もちろんもっと来客数を増やす努力は必要である。

委員) 四季折々に応じたイベントなどをしっかり発信すれば地域の人も市外の人も集まるのではないか。駅などを利用すると効果的だと思う。

委員) 以前はみずほ台駅で水子貝塚の情報を発信していたが、現在は行われていない。検討した方が良いと思う。

森本先生) 計画を作る時も、様々な生涯学習情報をどう発信していくかという議論をした中で、やはり駅のことが出た。一つの市に3駅あるところはなかなかない。東武鉄道に交渉をしたが実現できなかった。今後の課題でもある。

委員) 西みずほ台に住んでいるが、唐沢公園には案内看板はあるが、駅には無い。駅も有効に活用できると良い。

森本先生) 北海道の中標津という所ではバス停に子どもたちの作品を展示すると同時に児童館の宣伝もするという方策を取った。発信拠点としてコミュニティFMが聞ける装置を付けるところも出てきて、バス停に行けばイベントなどの情報が聞けるようになった。FM機器の管理や清掃を含めたバス停を管理する市民団体なども作ってやっているところもある。

委員) 生態系に興味があり、びん沼公園が素晴らしい所であるということをも市民にPRしたい。びん沼が持っている自然の力や生物の種類、鳥類、シラコバトも観察でき、そのことを子どもたちに伝えていきたい。この自然環境の中で守り育っていく子どもたちにとっても財産になっていくと思う。

座長) (2) について意見をいただきたい。それぞれ差異はあると思うが、良く進められていると思う。

委員) 前回、生涯学習パスポートの話をしたが、富士見市でもできないかと考えている。

森本先生) 生涯学習パスポートとは、今までにどのような活動をしてきたかを公的に認定する物。

座長) 検討の一項目としても良いのではないか。

委員) 防災関係では、先日の常総市の災害にあてはめると、常総市と富士見市の条件が非常に似ており、先日の10月31日に開催された防災訓練においても教訓とするべき内容であると思う。この生涯学習の項目の中に安心安全があるのでしっかり考えてもらいたい。

委員) 以前坂戸に住んでいたが、「環境学習館」というのがあり、地域の方、子どもたち、などがいつでも環境問題を学べるような施設がある。施設を通じて地域の人たちや子どもたちが繋がっているようで、富士見市にもそういった施設があればいいと思っている。

委員) 富士見環境センターには「利彩館」という施設があり、リサイクル品を販売している。こういったものも活用されると良い。

委員) 「環境学習館」は、実際行ってみると子どもからお年寄りまで誰もが自然に関する学習ができ、隣接する入間川も遊歩道が整備されている。また、ガイドの人が自然観察についてレクチャーしてくれるなど、本当に市民活動に利用されている。富士見市にもあると良いと思う。

事務局) 今回、森本先生のご指導もあり、大変活発な意見をいただいた。次回もこのような形で森本先生にも加わってもらい、議論を進めていきたい。

座長) 出来れば1ヶ月前にはアナウンスしてもらえると助かる。

上記の意見を踏まえ、次回は12月24日(木)午前10時から行うこととした。